

# 急ピッチでクラウド化を進める中 基幹システムの基盤刷新に新方式を採用

## Oracle Cloud at Customerの導入をNSSOLが支援

### 背景

基幹システムの保守切れが近づき、システム基盤の更改を検討していた。事業の拡大に伴うデータ処理の負荷増大に対応するとともに、クラウド基盤に移行することで運用コストの削減を目指した。



株式会社ベネッセホールディングス  
東京本部 執行役員  
グループIT本部 本部長  
高野 篤典氏



株式会社ベネッセコーポレーション  
東京本部 情報システム部  
副部長  
青木 孝修氏



株式会社ベネッセインフォシエル  
ITソリューション本部  
インフラサービス部  
サーバー構築課 課長  
成川 智則氏



株式会社ベネッセインフォシエル  
ITソリューション本部  
インフラサービス部  
サーバー構築課  
山下 崇氏

※所属、役職は取材当時のもの



株式会社ベネッセコーポレーション  
本社：岡山県岡山市北区南方3-7-17  
創業：1955年  
資本金：30億円（2019年3月31日現在）

### ソリューション

通信教育や模擬試験などで大量の個人情報を取り扱うことから、自社データセンター内にサーバーを置き、専用のクラウド環境を構築できるサービスを採用した。新サービスの導入においてはNSSOLが的確なサポートを提供した。

### グループ全体のクラウド戦略に合わせ、基幹システムの基盤刷新を検討

会員数250万人を擁する「進研ゼミ」、幼児向けの「こどもちゃれんじ」といった通信教育事業を軸に、模擬試験を中心とした学校向け教育事業、「たまごクラブ」「ひよこクラブ」をはじめとする生活事業など幅広いビジネスを展開するベネッセコーポレーション。同社は、グループ内のインフラ統合による効率化やコスト削減を目指し、2020年までの2年間でシステム全体の7割をクラウド環境に移行させる計画だ。

この戦略のもと、サポート切れが迫っていた基幹システムのクラウド化について、2017年1月から検討を開始した。新しいシステム基盤に対する要件としては、コスト削減や、事業の拡大に伴ってバッチ処理の負荷が年々増大し続けてきたことへの対策などを重視した。

### 新サービスの導入に対応できる、万全のサポート体制が必要に

ベネッセコーポレーションは従来、自社で選定したパブリッククラウドへの移行を推進してきた。しかし、基幹システムをパブリッククラウドで稼働させるとなると、可用性やセキュリティの面で少なからぬリスクを伴うと判断し、自社データセンター内にクラウド環境を構築できるOracle Cloud at Customer (OCC)とクラウドデータベースのOracle Exadata Cloud at Customer (ExaCC)の導入を決めた。

2017年5月、導入プロジェクトを開始。OCCやExaCCという新サービスを導入するに当たって、同社は初期トラブルへの対応を考慮し、厚いサポートをコミットした日鉄ソリューションズ（以下、NSSOL）をITパートナーに選んだ。NSSOLは同じ検証機を自社にも用意し、米Oracleと密に連携しながら導入を支援した。

### バッチ処理時間が大幅短縮、費用対効果は25%以上の向上

ベネッセコーポレーションはスケジュール通り、2018年1月、6月、9月の3回に分けて、顧客管理や販売管理など基幹系4システムのシステム基盤をOCCとExaCCで順次刷新した。

新システムに対する満足度は高い。サーバーの性能アップにより、バッチプログラムの半分で処理時間が半分に短縮されるなど大きな成果を上げた。コスト面でも、システムのCPU数が半減したことで、CPU数に依存するライセンス料が半減。これにより、システム全体の費用対効果が25%以上アップした。

同社は今後もクラウド戦略に基づき、オンプレミスのOracle Exadata上で稼働しているマーケティングシステムなどを新基盤へ順次移行させる計画だ。

### 成果

クラウド基盤への移行を1年余りで完了した。性能アップによりバッチ処理時間が大幅に短縮され、費用対効果も25%以上アップした。今後、その他のシステムもこのクラウド環境に順次移行予定。

## Key to Success

基幹システムの基盤更改において目標としたのは、コスト削減と処理性能の向上である。

ベネッセホールディングス執行役員グループIT本部 本部長の高野篤典氏は、「大規模なシステムの場合、オンプレミスとクラウドでコスト差は小さいといわれていますが、今回、両者の更改・運用コストを詳細に試算したところ、クラウド化で十分なコスト削減が可能だと分かり、それを目指しました。処理性能については、特に1日平均1500本実行するバッチプログラムの処理時間が年々伸び、メンテナンスの時間が取りづらくなっている状況を解消したかった」と語る。

ただし、クラウドへの移行に関して制約もあった。「ベネッセグループのクラウド戦略では、パブリッククラウドを利用するのが基本方針です。しかし、基幹システムは大量の個人情報を扱うため、そのままパブリッククラウドに移すのはセキュリティ上のリスクがあると考えました」（高野氏）

そこでベネッセコーポレーションが選択したのは、クラウドサービスと同様の使い勝手でありながら、自社データセンター内にクラウドサーバーを設置できるOCCとExaCCだった。

問題は、OCCやExaCCという新しいクラウドサービスを基幹システムに適用するためのノウハウがグループ内に不足していたこと。このため同社は、ITパートナーの選定に慎重を期した。

「Oracle製品に関して圧倒的なノウハウを持つITベンダー4社でコンペを行いました。決め手はサポート力の差です。OCCとExaCCの検証環境を自前で持ち、トラブル発生時における迅速な検証をコミットしてくれたNSSOL

を選びました」とベネッセコーポレーション情報システム部 副部長の青木孝修氏は選定の理由を明かす。

### 導入時のトラブル対応などでNSSOLが的確なサポート

実際のトラブル発生時でも、NSSOLの対応は的確だった。ベネッセインフォシエル（ベネッセグループのIT機能会社）ITソリューション本部インフラサービス部サーバー構築課 課長の成川智則氏は次のように話す。

「いざテストを始めてみると、OCCとExaCCで細かなトラブルが予想以上に発生しました。そのたびに、ログを取ってOracle社に調べてもらうというやり取りを何度かしながら原因を調べていました。これを、まずNSSOLに相談して原因をある程度絞り込んでからOracle社に調べてもらうように

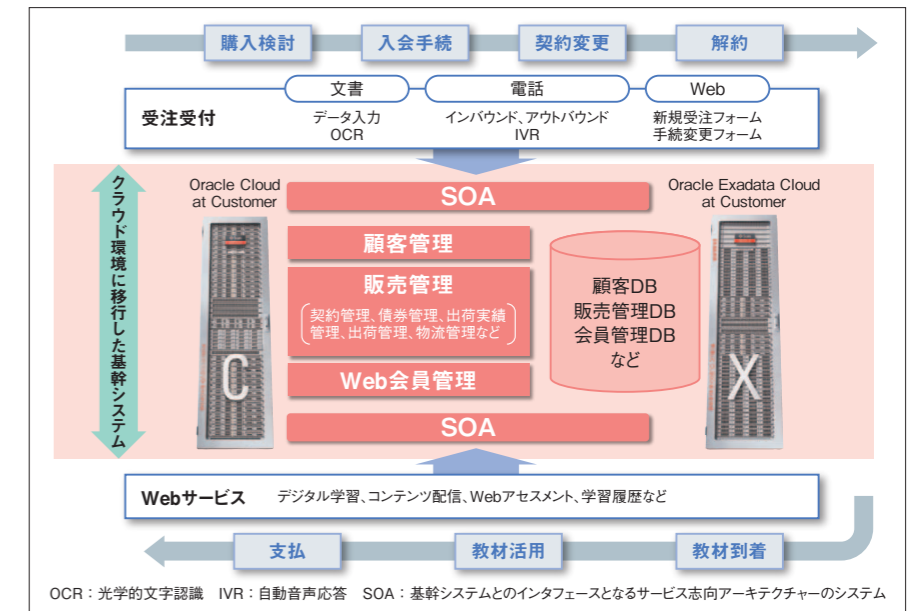
変えたところ、非常に効率的になり、問題解決までのリードタイムを短縮できるようになりました」

また、「OCCやExaCCだけでなく、関連データベースやアプリケーションサーバー周りまで、NSSOLはシステム全体にわたってしっかりとサポートしてくれました」とベネッセインフォシエルITソリューション本部インフラサービス部サーバー構築課の山下崇氏は評価する。

基盤更改の成果について高野氏は、「新しいクラウドサービスの導入は難度の高いものでしたが、チャレンジに見合うコスト削減や性能向上には非常に満足しています。システム運用の現場も喜んでます」という。

今後について青木氏は、「Oracleのパブリッククラウドと連携する形で、基幹システムのDR（災害復旧）対策を強化したいと考えています。維持費を抑えつつ、DRサイトを柔軟に構築できるようにしたい」と構想を語る。

### ベネッセコーポレーションの基幹システムの概要



### コアテクノロジー

クラウド構築技術、Oracle製品に関する技術知識

### システム概要

●サーバー：Oracle Cloud at Customer / Oracle Exadata Cloud at Customer